

普及活動情勢報告（令和4年2月分）

中央東農業振興センター農業改良普及課

南国市土地利用型園芸農業検討協議会の開催 ～A I 判定結果の検討～



会議風景

2月3日、南国市のスマート農業推進のための南国市土地利用型園芸農業検討協議会がWEB開催され、生産者、JA、高知大学、南国市、ITベンダー3社、県関係の19名が参加しました。

今回は、農業改良普及課が中心となり、ドローン空撮画像解析による、キャベツの欠株数判定結果について検討しました。実測値とA I 判定結果に高い相関があることが確認でき、生産者からも高い評価が得られました。

農業改良普及課は、今後も生産者と関係機関の連携を図りながら、スマート農業の取組を推進していきます。

カンキツ類でも天敵利用が進んでいます ～天敵利用研修会～



天敵とミカンハダニの状況について話し合う部員

1月24日に、JA香美地区果樹部が天敵利用研修会を開催し、部員6名、JA職員7名が参加しました。

管内ではミカンハダニの殺ダニ剤に対する薬剤感受性低下が問題となっており、平成29年より天敵（スワルスキーカブリダニ）の導入を進めてきました。天敵は化学農薬と比べてやや費用が高いものの防除成功率が高いことから、取り組む部員が徐々に増え始めています。

農業改良普及課からは、天敵の特徴、導入にあたっての注意点、天敵とミカンハダニの密度バランスが崩れた時のレスキュー防除について説明しました。

農業改良普及課は、今後も天敵利用でのミカンハダニ防除の成功率が高まるように引き続き指導していきます。

ブロッコリーの出荷が始まりました ～(株)ながおかの経営安定に向けて～



モニターを見ながら意見交換する普及指導員

1月25日、(株)ながおかにおいて、役員と従業員を交え、観察用ドローンで撮影したブロッコリーの生育状況の確認を行いました。

農業改良普及課からは、ほ場の輪作や根こぶ病対策について助言を行いました。役員からは、「欠株や生育状況の悪いところがよくわかるようになった」などの声が聞かれました。

ブロッコリーの出荷はこれから最盛期に入り、3月には水稻の育苗やオクラ栽培の準備も始まります。

農業改良普及課は、品目ごとに栽培技術の指導を行い、(株)ながおかの経営安定を支援していきます。

これからの収量UPに向けて個別指導を実施！
～土長地区長岡ピーマン部会～



農家から聞き取りを行う
指導員

2月9日、JA担当者と共に、JA高知県土長地区長岡ピーマン部会員10名を個別巡回しました。

農業改良普及課はJAと連携し、2ヶ月に1度長岡ピーマン部会を全戸巡回し、栽培管理や病害虫管理等を指導しています。今回は施肥・かん水管理を中心に個別指導を行いました。

生産者からは「日射量が増えたのでかん水量を増やした」「今の施肥量が適正か計算してほしい」といった声が聞かれました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と連携してピーマンの安定生産のための支援を行います。

まずは土づくりから！～逆川集落営農組織役員面談～



土づくりの重要性を説明する
普及指導員

2月2日、土佐山田町逆川公民館において、逆川集落営農組織役員2名に対し面談を行いました。

逆川集落では近年、水稻のごま葉枯病が多発しており、農家の生産意欲低下の要因となっています。昨年も遠目でも全体が茶色く見えるほど激発したほ場がありました。

農業改良普及課からは、ごま葉枯病の原因と対策について情報提供を行い、土づくりの重要性を説明しました。

役員からは「そういえばケイカルを数年やってない」「皆に土づくりのチラシを配って欲しい」などの声が聞かれ、ごま葉枯病対策に前向きな姿勢が見られました。

農業改良普及課は、生産者へ資料を配布するとともに、今後も面談や栽培講習会等を行い、逆川集落営農組織を支援します。

都会からの就農希望者への相談・支援 ～新・農業人フェアでの就農希望者との面談～



WEBで就農（移住）希望者
と面談する普及指導員

令和4年1月29日に開催された「新・農業人フェア」に香南市がWEBで参加することになり、中央東農業振興センターも同席して来場者からの相談に対応しました。

来場者からは、農業だけでなく香南市の生活環境への質問もあり、農業改良普及課は、産地提案書に記載された「香南すむうず」の移住情報のサイトを紹介するなど、幅広い相談に対応しました。

農業改良普及課では、親元就農や移住を含めた就農相談に、適切に対応できるような産地提案書の定期的な見直しを誘導するなど、香南市の農業振興に必要な新規就農者の確保・育成に向けて、引き続き関係機関と連携した取り組みを行っていきます。